



王子稲荷神社

飛鳥山公園から歩く 王子周辺散策



江戸時代に王子村の名主、畑野孫八が屋敷内に開いたのが始まりで〈名主の滝〉の名前の由来もここから来ています。庭園として整備されたのは、明治の中頃で、一般に開放されました。昭和20年4月の空襲により焼失しましたが、昭和35年東京都によって再開されるようになり、昭和50年には北区に移管され、現在に至っています。名主の滝は8メートルの落差を有する「男滝」を中心に、4つの滝から成ります。これらの滝とケヤキやエノキ、そして100本余りのヤマモミジが植えられた自然の風景を巧みに取り入れた回遊式庭園です。



名主の滝公園



お札と切手の博物館

展示室では、お札、切手、証券など、国立印刷局が製造した各種製品と、明治期以前のお札、諸外国のお札や切手、お札の製造と深いかかわりをもつ銅版画など、様々な資料を展示し、お札の歴史、偽造防止技術などについて解説されています。



飛鳥山公園 児童公園

音無親水公園



自然の川を模した公園で、日本の都市公園百選にも選定されています。春にはお花見、夏には水遊びが楽しめます。石神井川はこの辺りでは音無川と呼ばれ、古くから景勝の地として親しまれ、「かつての溪流をもう一度」という声に応えることとなり、昭和63年、北区は、この音無橋の下に親水公園を整備しました。



王子神社

王子権現の名称で江戸名所ともなっていました。非常に高い格式を持ち、東京の北方守護として東京十社に選ばれています。北区指定無形民俗文化財の民俗芸能「王子田楽」を奉納する、8月の例大祭や12月の熊手市が有名です。また、都指定天然記念物の大イチョウ、理容業の神である関神社と毛塚などの見どころもあります。



飛鳥山公園

沢沢栄一の生涯と事績に関する資料を収蔵・展示し、活動を広く紹介する博物館として、1982年に旧沢沢邸跡に開館。関連イベントなども随時開催。旧沢沢庭園に残る大正期の2棟の建築「晩香廬」「青淵文庫」の内部公開も行っています。

沢沢史料館